



令和7年度 小学部 遊びの指導の実践事例

題材名：水遊びで、水をすくってこぼす、樋に水を流す、的に向けて水をとばすなど 授業者： 野上 晃代
して、続けて遊ぶ

教材について	本グループは、教師が誘ったり、友だちの遊ぶ様子を見たりすると乗り物や砂などの素材を手にとって遊び始める児童や、自分から遊び始めるが、すぐに遊びをやめたり、一定時間遊び続けたりする児童で構成されている。遊びの様子を見ると、砂を握るなどして素材の感触を楽しむ、砂をすくってこぼす、投げるなどして行為やその結果を楽しむ、砂を容器に詰めてひっくり返し、砂を型取るなどして目的をもって遊ぶなど、児童によって遊び方は様々である。 本実践の水遊びは、暑い時期に冷たい感触が楽しめ、興味・関心をもてると考えた。また、水に触れて水そのものの感触を楽しむ遊びだけでなく、水をすくってこぼす、とばすなどの行為やその結果を楽しむ遊び、的に向けて水をとばす、水が樋などを流れることを利用してものを流すなどの目的をもった遊びなど、本グループの児童それぞれの遊びの段階に応じた活動を仕組めると考え、水遊びを取り上げた。
--------	---

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容	生活科 小学部1段階 エ 遊び	配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容	国語科 小学部2段階 A 聞くこと・話すこと
知・技	：(イ)身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	思・判・表	：ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。
学 び	：ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。		

題材目標	知・技	水遊びで、水をこぼしたり、とぼしたりした結果の面白さがわかり、自分から容器で水をすくって地面にこぼす、傘などに飛ばすなどして遊ぶ
	思・判・表	水遊びで容器を使って水をすくって地面にこぼす、傘などにとばすなどして、10分程度続けて遊ぶ
	学 び	毎回の授業で容器を使って水をすくって地面にこぼす、傘などにとばすなどして10分程度続けて遊ぶ
	配 慮	水遊び場に出た時に、「先生、●●（水遊びの種類）」と体験した遊びを伝える

授業評価	知・技	自分から容器を選んで水をすくって地面にこぼす、傘などにとばすなどして遊ぶようになった。
	思・判・表	容器を使って水をすくって地面にこぼす、傘などにとばすなどして、10分程度続けて遊ぶようになった。
	主 体	題材後半の毎回の授業で、自分から容器を選んで水をすくって地面にこぼす、傘などにとばすなどして10分程度続けて遊ぶ姿が見られた。
	配 慮	水遊び場に出た時に、「先生、雨」などと体験した遊びを伝えることができた。

ポイント

水をすくってこぼして遊ぶための場面設定の工夫

児童の実態から、ねらいとなる遊びが始まったタイミングで遊び続けるための働きかけができるように、遊び方の違いで道具を分けて配置した。また、水をすくってこぼしたり、とぼしたりする遊びに目が向きやすくするために、水をすくう道具を水入れの中に浮かべたり、傘を水入れの近くに置いたりした。

水入れの中に浮かべたり、水場の周囲に置いたりした。

ポイント

水をすくってこぼしたり、飛ばしたりして遊び続けるための働きかけの提示の工夫

水をこぼしたり、とぼしたりする遊びの面白さに目を向けて続けて遊ぶことができるように、遊びの高まりに応じた誘い方をするようにした。

〔例〕

はじめは、教師が小さなコップですくってこぼす遊び方を提示する。次に一緒にこぼしたり、とぼしたりする。5分程度遊ぶようになった段階で、容器の大きさを変えて水をこぼしたり、遠くに飛ばしたりする遊び方を提示した。

容器の大きさや、とばす距離を変えるようにした。

考察
○水を地面にこぼす、傘などにとばすという行為的な遊びを繰り返し楽しんで遊ぶ姿が多く見られた。 ➡児童の遊びの様子に応じた働きかけをしたことで、ねらいとする遊びの面白さを段階的に理解できたと考える。
○樋を使った遊びでは、水の流れを利用して、おもちゃなどを流すといった目的的な遊びをする姿が見られた。 ➡行為的な遊びから目的的な遊びへの高まりが見られたため、今後は、遊びを高めることも視野に入れてねらいを検討していく。
○水遊びを繰り返す中で教師とやり取りをする場面が増えた。 ➡遊びを通して指導することで、ねらいとしていたこと以外の部分でも高まりが見られた。今後も「遊びのよさ」を十分に生かせるよう活動を検討して指導していきたい。